

「自分流」が創られるまち

書道家
粟津紅花

書道には現在「〇〇流」といういわゆる流派はありません。しかし、毎日系とか読売系などという大きな系列があったり、会派があったり、展覧会でも「漢字部門」「かな部門」「調和体部門」「篆刻部門」などといった部門に分かれることが多いです。そのため、大きな展覧会以外で、それらの人々が一堂に会することはあまりありません。

ところが、横浜には、そういった垣根を取り払い、書壇の各分野が結集して、相互の親睦を図るとともに、書道文化の興隆に寄与することを目的とした団体がいくつかあります。外国の文化をいち早く取り入れ、独自の発展を遂げた、柔軟な気質を持った土地柄故なのではないかと推察します。

私は3歳から筆を持ち、学生から銀行員の時をまたいで、8年間書道教室で助手を務め、それを基盤に開塾しました。教室を主宰して25年、現在は8か所の教室で書の指導に当たっています。また、練習帳や年賀状本などの書籍出版、イベントでのパフォーマンス書道やワークショップ、店舗や商品のブランド力ある筆文字ロゴ制作、扇子・風呂敷・栴など、のデザイン性のある筆文字を書き入れた商品

販売など、日本の伝統文化である書道の人々に広く伝えて行きたいという思いで、国内外で活動しています。みなとみらいの夜景を墨絵で描いた扇子は、海外でも「横浜」とわかっていただけることに、知名度を感じ、大変嬉しく思います。

最近横浜市は外国に関わる人々の割合が増えてきました。特に私が住む南区、お隣の中区ではその割合が高いです。必然的に私の教室の生徒も、日本語が母国語でない方が増えてきました。小学校でもなかなか授業がスムーズに行かなくなっている話を聞き、横浜を中心に書道教室を開いている身として、できることを試行錯誤しています。

教室の1つに、精神に障害をお持ちの方の教室があります。障害の有無に関係なく、アートをコミュニケーション・ツールとした社会参加を主眼に活動しています。こういった活動にも、行政が相談に乗ってくださったり、知恵をいただける環境を大変心強く思います。横浜市は「日本一女性が働きやすい、働きがいのある都市」を目指し、経済局が主催となつて、市内の大型商業施設や百貨店と連携する事業も積極的に行っていたいただいています。林



文字横浜市長と記者会見でPRもしました。日本の先頭に立つことに目標を設定する横浜、と同時に古き良きものが残る横浜。まさにここに、私が目指す書の姿勢が重なります。

何千年も前の書の臨書を繰り返し、「書の法」をしっかり身に着け、そこから「自分流」を創作する。変わらない伝統美を大切に、時代に合わせてしなやかに自分流を表現し、次世代に繋げて行きたいと思えます。

あわづ・こうか

本名、絵里。3歳から筆を持ち書を学ぶ。銀行勤務後、紅花書道塾を主宰して25年。現在8つの教室で書を指導。のべ10万人以上の指導実績を持つ。国内外で幅広く活動中。曾祖父・祖父も書を指導。長女も高校生で師範を取得。長男もコンクールで多数受賞。まさに書道家一家。著書に『書写書き込み練習帳』（創開出版）。